平成２１年７月の解説（府県天気予報）

【７月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけて前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く大雨となったところもありました。中旬は北日本では低気圧が次々と通過したため雨の日が多く、大雨となったところもありました。東・西日本では旬中ごろは太平洋側を中心に晴れましたが、旬始めと終わりに前線と低気圧の影響で大雨となったことところがありました。下旬は前線が本州付近に停滞し九州北部と中国地方を中心に、北日本から西日本の各地で大雨となりました。月を通して南西諸島は太平洋高気圧に覆われ、おおむね晴れました。

月を通しての日照時間は南西諸島以外で平年よりかなり少なくなり、7 月の月間日照時間の最小値を更新したところがありました。降水量は北日本で平年よりかなり多く、東・西日本では多くなり、北海道地方を中心に月降水量の最大値を更新したところがありました。一方で、南西諸島では少なくなりました。気温は北日本で平年より低くなり、南西諸島では高くなりました。

【７月の検証結果】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が 76%、明後日予報が 70%と例年（注）よりそれぞれ 3 ポイントと 5 ポイント低くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は西日本を中心に例年より低くなり、特に四国地方で 18 ポイント低くなりました。明後日予報も西日本を中心に例年より低くなり、西日本では 9 から 20 ポイント低くなりました。また、明日の最高気温の予報誤差はほぼ全国的に例年並みとなり、全国平均は例年と同じ 1.9℃でした。最低気温の予報誤差もほぼ全国的に例年並みで、全国平均は例年より 0.1℃小さい 1.1℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【７月の天気予報から】

関東甲信地方の今年の梅雨明けは、平年より 6 日早い 7 月 14 日ころと発表されました。東京では、7 月 13 日から 16 日まで 30℃を超える暑さとなり、特に 16 日の 34.2℃は今年 7 月の月最高気温となりました。

気象庁では、日々の天気と合わせて日最高気温と日最低気温を発表しています。予報は 1℃単位で、週間天気予報では予測精度なども考慮して誤差の幅を付加して予報しています。

気温予報は様々な分野で利用されています。身近な例では、気温が高くなるとアイスクリームの売り上げが増えますが、気温が高くなりすぎるとアイスキャンディーの方がよく売れるようになると言われています。また、気温が上がると冷房による日中の電力使用量が増えるなど産業分野への影響もあります。

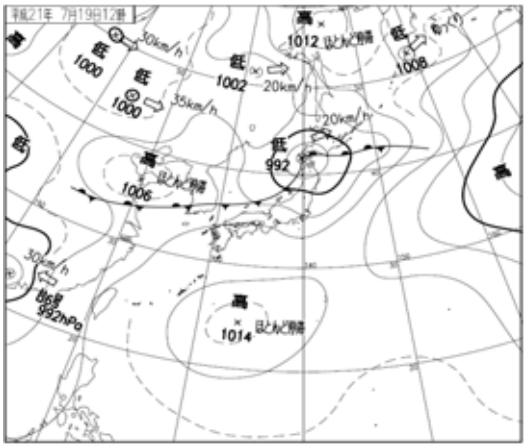
気温が上がる条件はいくつかありますが、第一に暖かい空気が流れ込むこと、第二に強い日射があることが重要です。また、勢力の強い高気圧の圏内で、上空からの下

降気流によって気温が上昇したり、フェーン現象で上がることもあります。一方、東京など関東地方では、風の吹く向きによっても気温が大きく変わることがあります。

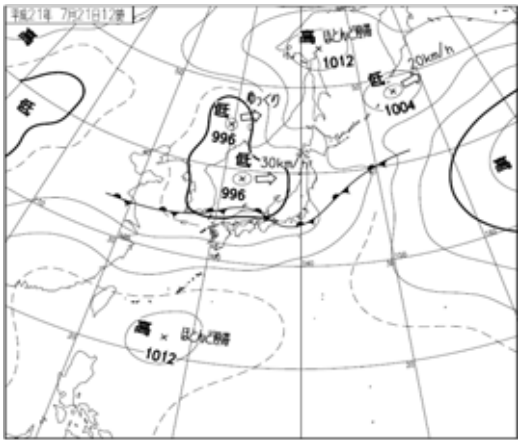
第１図は 7 月 19 日 12 時の天気図です。この日、東京では弱い雨が降ったものの、日中は晴れて南よりの風が吹き、最高気温が 33.9℃まで上がりました。第２図は 2 日後の 21 日 12 時の天気図です。21 日はほぼ 1 日弱い雨が降り続き、北東の冷たい風が吹いたため最高気温は 23.7℃までしか上がりませんでした。これは 5 月下旬の平年値ですから、わずか 2 日の間に 10℃以上、季節が 2 ヶ月も逆戻りしてしまったことになります。最高気温が 33.9℃となった 19 日の夕方の天気予報では、明後日 21 日は「くもり」で最高気温は 28℃と予想しました。低気圧が北海道の東に進んだ後、前線が関東の南海上まで南下して、関東地方では北東からの比較的涼しい空気が流れ込むと予想し、最高気温を６℃近く下げて予報しました。また、前日の 20 日の夕方の天気予報でも、明日 21 日は「くもり明け方から朝雨」で最高気温は 27℃としました。この予報の時点でも、前日の予想よりはさらに１℃下げたものの、日中は雨が止むとの見通しで、それ以上大きく最高気温の予想を下げることはできませんでした。

しかし、21 日の実況は弱い雨がほぼ１日降り続いたために気温が上がらず、予報を大きくはずすことになってしまいました。

予報官は予想される天気や風などの様々な要素を検討して気温予報をしていますが、この時のように北上している前線が南下してくるような場合には、南下してくる前線の位置やそれによる天気の変化などによって気温が大きく違ってくるため、最高気温の予報も難しくなります。今後とも、気温予報の大きなハズレをなくすため、こうした事例の分析を重ねて精度の向上に努めていきます。



第１図　7 月 19 日 12 時の天気図



第２図　7 月 21 日 12 時の天気図

【９月の天気予報の利用にあたって】

９月はしばしば勢力の強い台風が上陸し、８月と並んで台風による災害が多い月です。2007 年 9 月 7 日 0 時前に強い勢力で静岡県伊豆半島南部に上陸した台風第 9 号は、徐々に勢力を弱めながら関東地方から北日本を縦断し、8 日朝に石狩湾付近の海上で温帯低気圧に変わりました。この台風により、東海地方の一部と関東甲信地方の各地で記録的な大雨となりました。台風通過中の死傷者は多数にのぼりましたが、通過後の 8 日昼前も増水した河川で 2 名死亡しました。 台風通過後も増水した河川には近寄らないようにしましょう。